

報告 11・27 全学労組・全学労連

全国総決起集会・一日行動

「チーム学校」は私たちの未来なのか?

学校事務職員の労働組合で作る全国組織・全学労連が主催する中央行動が、11月27日に開催。
がくろう神奈川も参加し、1日行動に取り組んだ。

全学労連(全国学校事務労働組合連絡会議)は毎年、国の予算編成作業が進められる1月下旬に、要請書を作成して文部科学・財務・総務の3省と知事会等の地方団体、国会議員に向け要請活動を展開。あわせて総決起集会・デモ行進を行っている。

今年は政令市費化に「チーム学校」と、学校事務をめぐる議論が活発化している中での中央行動となった。要請活動ではそうした目下の情勢に対する問題意識を広めつつ、同時に定数問題や臨時職員の労働条件といった従来からの課題についても、変わらず改善を強く訴えた。

「チーム学校」で定数はどうなる?

「チーム学校」のかけ声のもと、カウンセラーなど専門職員の学校配置という動きがある。学校事務職員についても、学校経営に携わる専門職員といった方向に位置づけし直し、

定数措置を図ることが検討されている。「チーム学校」については財務省も高評価で先行きは明るい……なんてことはやはりなく、私たちの想定していた通りの厳しい見通しが要請の中で明らかになった。

要請で財務省担当者は「チーム学校」自体は評価しつつ、各種専門職員の基礎定数化については「必ずしもイコールとは考えていない」と説明。これは「チーム学校」は推進しても、それに伴う定数措置は法に定める基礎定数ではなく政策や予算により毎年変動する加配定数にしかない可能性を示唆している。

加配となれば、そこには常勤ではなく臨時職員が充てられるのは今ある加配の実態から明白。「チーム学校」の結果が不安定雇用学校職員の増大となれば、「チーム」の名が泣くというものだ。

総決起集会とデモは今年も全学労組(全国学校労働者組合連絡会)と共催で行った。

闘争報告では、多忙化解消策と称して県教委・教組が目論んだ学校事務の共同実施導入を阻止した青学労(青森)の報告が印象的だった。がくろう神奈川からは横浜新入学校事務職員解雇問題についてア

ピール。Sさんの解雇撤回に向けた闘いの状況について報告した。

デモは日比谷公園から文科省、東電前を通り銀座へ。学校事務の共同実施反対、臨時職員の労働条件改善、教育の完全無償化、原発廃炉、戦争法廃止などを訴え、1日の行動を締めくくった。

財形貯蓄の共通番号の扱いが余りに安易すぎる

■厚生課へ抗議

厚生課から「マイナンバー制度導入に伴う財形貯蓄書類に係る事務取り扱いについて」という通知が来た。しかしここに記載されている「共通番号」の扱いがあまりにも安易かつずさんなもの。特定個人

情報の管理を学校任せにして、当局の責任を放棄している。給与・税事務の方は、「準備」ができていないから記入についてはストップしているのに、こっちは拙速な進め方だ。さし戻せ、様式を変えろと要求。

旅費の個人口座振り込み(選択制) 17年度実施を県教委提案

組合は12月に入り「定員予算交渉」「諸権利に関わる交渉」「賃金交渉」を連続で行っている。県教委は17年度の人事給与システム更新に伴い、給

与・旅費事務の改編を行おうとしている。学校事務職員への労働環境悪化を許さず、これから予想される様々な合理化策に反対してゆこう。

厳しい冬を仲間の連帯で乗り越える

毎度夏冬のボーナス期、支援のカンパを取り組んでいる。私たち自身、政令市費化やSさんの闘いと大きな課題を抱えしんどいけれど、自分たちの闘いが他の人たちとつながれるという思いが運動の原動力でもあるから。仲間とともに闘って春を呼び込もう。仲間たちの闘いの紹介。

忍び寄る「軍隊リクルート」 「職場体験学習 (総合学習)」に要警戒!

県内各地の中学校で、職場体験学習を名目に自衛隊への見学等が日常的に行われているのを知っているだろうか? 自衛官募集の窓口である地方協力本部のサイトには「総合学習」のコーナーがあり、

1. 沖縄の基地建設反対運動へ
翁長知事の埋め立て承認取り消しとそれを支持する沖縄のみなさんの闘いに対して、警視庁(東京)から機動隊を導入し、辺野古三地区への直接の国の交付金の画策など、なりふり構わぬ日本政府の姿は、悲しいまでにみじめだ。国が県を訴える前代未聞の全面対決ーキャンブシユブのゲート前では命がけの非暴力

未来の自衛官獲得のために積極的な支援を行う。2013年度、全国で2601回・26317人が参加したという。この夏、横浜・中山中で夏季学習として一年生十人が自衛隊演習見学をした衝撃は記憶に新しい。その裾野にやはり「教育」の名目で行われる「軍隊」の学校への侵入があることを忘れてはならない。

の座り込みが続いている。
沖縄を孤立させず、みんなの連帯で逆に日本政府を追いついで行こう。

2. 青葉郵便局ゆうめいと清水さんの雇止め撤回を!

郵便局の非正規労働者として十年以上も働いた清水さん。解雇撤回を裁判で争う。

ゆうめいとのお金で生活する清水さんにとっては、生存権を奪われることでもあり、女性の貧困という深刻な現実を突きつける。

改悪された派遣法拡大、継続審議される残業代「ゼロ法案」、さらに解雇の自由化法案と、労働者をモノ化し使い捨てにしていくなか。私たちの側は、労働契約法二十条でうたう「均等待遇実現」を目指そう。日本最大の非正規職場である日本郵政の非道を許さず、解雇撤回を勝ち取ろう。

3. 寿越冬闘争支援へ

年末〜お正月にかけて、横浜寿町では寿公園に大きなテントを張り、越冬闘争が取り組まれる。炊き出しの他、医療・生活・法律などならんで県共闘の労働相談も。越冬の風物詩だ。餅つきや高校生合唱など、この時期、仕事の無い、またふるさとへ帰ることもできない仲間たちと一緒に集う。がくろの組合員も参加するよ。生活保護費の

横浜

市教委は、政令市移管に伴う労働条件をきちんと交渉せよ!

十月十七日、ようやく

「職員の給与・勤務時間その他の勤務条件に係る県・市制度一覧」を提示したが、政令市移管後の基本的な労働条件についての中身は一切なし。現在までに、明確になっていることといえば、「(県費)教職員の給料日は十六日で移管後も変更しない」という一点のみ。学校事務職員制度をどうするか、未だ回答できない

引き下げなど、困難な仲間たちへの容赦ない仕打ちには腹が立つけれど、仲間の連帯で攻撃を跳ね返していこう! 毛布や防寒着など、よかったら送ってください。

戦争法の実動などを許さないことも、安倍政権の狙う様々な悪政に対決していきたいと思う。
ひとりではみんなのために! みんなはひとりのために!

いと極めて不誠実な対応だ。

組合の最大の要求は、他の二市と同様「現行学校事務職員制度の維持」である。きちんと交渉をしないうちに、タイムリミットで逃げ切るようなことは絶対に許さない。正規事務職員の制度維持だけではなく、臨任の制度化や処遇改善等々、交渉すべきことは山ほどある。市教委は誠意を持って交渉せよ。